



学び直し

北海道立総合研究機構の姉崎克典です。この度は環境調査研修所の岩切先生からバトンを引き継ぎました。私は当機構の前身である北海道環境科学研究センターに赴任して以来、ダイオキシン類とPCBの分析を中心に業務や研究を行ってまいりました。岩切先生は、特にダイオキシン類分析においては国内の第一人者であり、これまでも幾度となく助言や意見等を頂いてまいりました。これからもよろしくお願ひします。

さて、私がダイオキシン類分析を始めたのは2001年のこととなります。当時はダイオキシン類対策特別措置法が施行され、地方公共団体でもダイオキシン類の分析体制を整えようという頃でした。私自身を含め所内で誰もダイオキシン類については何もわからないという状態からのスタートでしたので、環境調査研修所でノウハウを学ぶ必要がありました(当時は国立環境研究所環境研修センターという名称で、現在は製品評価技術基盤機構にいらっしゃる大高教官がダイオキシン類の研修を担当されていました)。一方、ダイオキシン類分析には二重収束型の高分解能質量分析計という高価な機器を用いることから、単一の用途だけに使うのはもったいないということ、そして、北海道でPCB廃棄物処理が計画されていたこともあり、せつかつなのでPCBの全コンジェナー分析もやってみようという軽いノリでPCB分析の世界にも足を踏み入れました。その後、室蘭市でJESCOによるPCB廃棄物処理がスタートし、筆者らの機関ではそのモニタリングを担当することとなり今に至っているところです。このモニタリング事業をやっていく中で、JESCOでPCB分析を担当されている方々とつながりができ、一緒に分析における不確かさを推定したり、PCB分析に係る研修やレクチャーを実施するなどより実務的な交流を行ってきました。分析員の方々にはPCB分析だけでなく、環境分析一般に関する知識や技能も身につけ、PCB処理事業が終わった後もそのスキルを活かしていただきたいと考えており、その成果として環境計量士などの国家資格を取得されることを推奨しています。環境計量士試験では分析化学を中心に大学教養レベルの化学の知識が問われますので、研修にあたっては筆者らも大学時代の教科書などを引っ張り出して勉強する、つまり学び直しの必要があります。結構大変かと思っていたのですが、学生時代やまだ研究者として駆け出しの頃には理解できなかったことが、実務を経験することで別の視点で見ることができたり、新たな発見があるなどやってみるとなかなか興味深く、楽しみながら準備をしています。

最近ではコロナ禍の影響もあり、各メーカーさんがウェビナーなどをたくさん開催しておられます(北海道にいる私からすると移動せずに聴講できるのはうれしい限りです)。今更聞けないような初歩的なことをレク



写真：室蘭市測量山から見た室蘭市全景 中央の箱形の建物がJESCOのPCB処理施設です

チャーしていただいたり、これまでの常識を覆すような知識が得られたりと大変興味深いもので、可能な限り時間を作って積極的に参加するようにしています。メスフラスコやメスシリンダーなどの容量をはかるガラス器具の乾燥機での乾燥は御法度というのは常識と思っておりましたが、あるガラス器具メーカーさんのウェビナーでは精度上には全く問題がないことが紹介されていて、まさに目から鱗が落ちる思いでした。

仕事上だけでなく子供の勉強を見ている、新たな発見や自分の知識の間違いに気づかされることが多々あります。最近では「必」の書き順の間違いを指摘されたりとか、駅に行くはgo to the stationなのに、なぜ学校へはgo to schoolでtheがつかないのかと悩んだりとか……(すみません、こんなレベルです)。

学び直し(リカレント教育)と聞くと、どうしてもキャリアや収入のアップに注目が行きがちですが、本来学習とは自身の人生を楽しみ豊かにするためのものと考えます。今すぐに役に立つかどうかかわからないけど、先人の知識に触れたり経験したりして新しい知見を得ると共に、これまでの知識をアップデートできる機会がたくさんある喜びを感じている今日のこの頃です。

ところで、最近の小学校の教科書を見てみると、サクランボ算といった計算の工夫がなされていたり、人気絵本作家のヨシタケシンスケさんの絵が描かれていたり、見ていて楽しいです。また、中学校1年でサイレントeについて教えていたり、昔とはずいぶん変わりましたね。昔の教科書との比較を子供と話したりするのもまた楽しいものです。

さて、次にバトンをお渡しするのは弘前大学の川上淳先生です。川上先生は私がまだ当大学で学部生だったときに赴任され、先生方の中では年齢が近かったこともあり、徒弟と言うよりも同じ学生仲間のように接していただきました。講座は違いましたが、論文の書き方や意義についてもいろいろ教えていただいたことは今でも心に焼き付いております。それでは川上先生よろしくお願ひします。

(独立行政法人北海道立総合研究機構 姉崎克典)